

HOTeye

心と心のかよいあう福祉の情報誌

ホットアイ

2024 Vol.117

- P1 **特集** 社会福祉事業所紹介
子どもたちが成長する喜びを
分かち合える魅力
学校法人藤田学院
認定こども園 鳥取短期大学附属こども園
- P5 チャレンジ福祉の仕事
学校法人藤田学院
認定こども園 鳥取短期大学附属こども園
- P6 福祉職場で働く専門職の紹介
絵本をとおして子どもたちの好奇心や創造力を育む
「司書(図書館司書)」
- P7 福祉人材センター情報
福祉の職場で働きたい方と人材を求める
事業所との橋渡しをしています
- P8 ボランティア・市民活動センター情報
とっとりボランティアバンク登録団体紹介
関金小学校読み聞かせグループ
「わくわく」
- P9 ボランティア・市民活動センター情報
自分たちの“楽しい”を
子どもたちの“たのしい”につなぐ
鳥取市男性保育士会「じゃんぐる☆じむ」
- P11 ことぶき高齢者情報
生きがいや健康、仲間づくりの活動紹介
- P12 ことぶき高齢者情報
いきいきシニア
- P13 鳥取県社会福祉協議会からのお知らせ

子どもたちの心と体を育む“山”に抱かれて

学校法人藤田学院 認定こども園 鳥取短期大学附属こども園

認定こども園鳥取短期大学附属こども園は、JR倉吉駅の東に位置する鳥取短期大学と鳥取看護大学のある小高い山の上の開けた丘陵地にあります。

こども園は、背後を「ちくちく山」と「はくちょうの丘」に囲まれ、園舎とつながる「なかよしの庭」とともに、体験と創造の場となり、園児たちは、その豊かな自然の中でのびのびと遊び、園での生活のゆとりを広げ、心と体を育てています。



子どもたちが成長する喜びを分かち合える魅力



図書室「えほんの部屋」

鳥取短期大学附属こども園の特徴的なところは、松が生い茂ることから名付けられた「ちくちく山」や、展望台や園の菜園がある「はくちゅうの丘」の起伏に富んだ丘陵地帯が園のすぐ後ろにあり、広々とした園庭（なかよしの庭）とともに、園児の暮らしを豊かに広げる「山」があることです。

その山からは、栗やキウイが採れ、

菜園ではサツマイモや大根、スイカなどを園児たちが植付けて栽培し、収穫した食材を給食に用いるなど、自然の恵みと喜びを感じられる「食育活動」にも役立てられています。

子どもたちの好奇心や探究心をくすぐる仕掛け

ちくちく山では、大人でも尻込みしそうな急な坂を登る「ロープ登り」が子どもたちは大好きです。ロープを使わないで山肌を登る子どももいますが、子どもたちが声を掛け合ったり、助け合ったりして登る姿を見ると、

こんなところで粘り強さと思いやりのあるやさしさが育まれているのだと感じます。

そんな子どもたちを見守る横濱純一園長は、「自然豊かな環境の中で、多様な活動ができるところが本園の魅力です」と、笑顔を見せます。

また山での活動とともに、子どもたちの好奇心や探究心をくすぐり、育んでいるのが「えほんの部屋」という図書室です。蔵書は約5,500冊で、司書による貸出しと管理から、レファレンス（情報相談）、読み聞かせなどが行われています。「幼稚園・保育園やこども園に図書室があるところは少なく、司書が配置されているところも少ないと聞いています。これも本園の特徴的なところですよ」と、横濱園長は誇らしそうに話します。

このほかにも、子どもたちのチャレンジ意欲や集中力などを育む、竹馬こま回し・なわ跳びの継続的な活動など、プログラムは多彩です。

楽しく交流する中で学びの幅を広げる

こども園は、同じ法人内の鳥取短期大学と鳥取看護大学との連携交流ができる大きなメリットがあります。

学校法人藤田学院
認定こども園
鳥取短期大学附属こども園
よこはまじゅんいち
横濱 純一
園長

す。課外活動の「はくちゅうクラブ」では、大学の教授などによる、英語あそび・歌あそび・粘土あそび（陶芸）・運動あそびなどに取り組み、学びの幅を広げています。

また、短期大学幼児教保育学科1年生全員の教育実習の受け入れ、看護大学の小児看護学実習3年生の受け入れのほか、大学祭「シグナス祭」に参加しての舞台発表、短大の食物栄養専攻の学生とのクッキング



クッキング「おつきみだんご」づくり

活動など、園児と学生の交流の機会にもなっています。

地域の人たちとの世代間交流も活発で、倉吉市大河内地区での田植え・稲刈り体験では、お互いをニックネームで呼ぶ間柄となり、地域の人たちと親しく交流しています。祖父母も含む保護者26名が参加する「えほんサークルちくちく」では、絵本の読み聞かせ・紙芝居・パネルシアター・新聞紙シアターなどが行われています。

このほか、保護者36名が加入する「おやじの会」もあり、羽衣山登山・バーベキューなどの野外活動から、プールのペンキ塗りなどの環境整備、レクリエーションなど、みんなで楽しむ交流活動が活発です。

職員を信じて、見守りながら一緒に考えていく

こども園では、保育事務処理システムを導入して、手書きからデータ入力に切換え、職員の事務作業の軽減を図ってきましたが、今年度はさらなる軽減策として、タブレットを使ったクラウド型の最新システムの導入を予定しており、ペーパーレス化、キャッシュレス化を目指しています。

また、一カ月の残業時間の目標を20時間未満に設定し、見通しを持って業務に取り組むようにしています。令和5年度の残業時間は、令和4年度比で15%減少し、退勤しやすい環境づくりにつなげています。

副園長の福井真由美さんは、「少しずつ働き方改革を進め、先生が元気なこども園にしたいと思っています。環境整備はもとより、職員が力を合わせて取り組むことで連帯感や一体感が生まれ、職員間の良好な



副園長の福井真由美さん



はくちょうクラブ「英語あそび」

関係づくりとなり、スムーズなコミュニケーションが保育を行ううえで、子どもたちにプラスとなります」と話します。

そして「職員同士、試行錯誤しな

がら取り組み、反省し改善して、さらに取り組むことで生まれる達成感があります。その大変さを乗り越え、と次への意欲につながる、職員を信じて任せ、見守りながら一緒に考

えていきたいです」と、管理職の立場からの言葉です。

保育は驚きと感動、 そして喜びに溢れている



主幹保育教諭の石村祐子さん

主幹保育教諭の石村祐子さんは、「子どもが成長していく姿を一番近くで感じることが出来るのは、やはり保育者だと思います。初めての一步や発語、初めての経験のドキドキ感やワクワク感を一緒に体感できるなど、言葉では言い表すことのできないたくさんさんの感動が日々の生活遊びの中に詰まっていると感じています」と、笑顔を見せます。

また、運動会に向けて「竹馬チャレンジ」の練習をする中で、「なかなかうまく乗ることができない友だちに、子どもたちが自主的にコツを丁寧に伝え、励ましながら一緒に練習をして、乗れるようになった時に、自分のことのように喜ぶ子どもたちの姿にジーンとききました。子どもたち

ちの一体感がとても感じられ、子どももつてすぐ素敵だなど感動しています」と、うれしそうに話します。

同じく主幹保育教諭の濱田久美さんは、「工夫した環境で、子どもたちが意欲的に目を輝かせながら遊び込んでいる姿を見る時に、深い喜びを感じます。日常生活の中においても、子どもの気づきや驚きを共有できたり、子どもの成長を保護者と一緒に喜び合えたりすることは、とてもうれしいことです」と話します。

そして、保護者から育児相談を受け、アドバイスに対して感謝された



主幹保育教諭の濱田久美さん

時には、プロとして信頼されているという喜びとやり甲斐を感じると、少し照れながら話します。

くよもぎの香りのエピソード

ある日、高校生から「ちくちく山に行きたいですか？」と、園に電話がありました。高校の体育館でバスケットボールをしているときに、懐かしいよもぎの香りに気づき、「よもぎといえは園で作ったよもぎ団子！そしてちくちく山！」と当時を思い出し、遊びに行きたいと、同じ高校の卒園児に声をかけ、5、6名でちくちく山で遊んで帰ったことがありました。

卒園して10年以上も経ち、懐かしさから行ってみたくと思える園であることに喜びを感じ、誇りに思えました。大切な乳幼児期の様々な経験が、豊かな心を育むことを改めて感じられた、心温まるエピソードの一つです。



横濱純一園長からの メッセージ

子どもたちは、遊びや友だちとの関わり、絵本などとの出会いをとおして学びを積み重ね、社会性を育てていきます。子どもたちが成長していく姿は“一大絵巻”を見ているようで、その壮大なスペクトルに感動・感激の日々です。

保育の仕事はとても楽しく、やりがいがあります。子どもたちの人間性の基盤を形づくる、重要で尊く、社会的使命の高い仕事です。

保育者は、日々、子どもたちの思いや願いを受け止め、愛情をもって正面から向き合っています。その中で、目標を達成できた時のうれしさを子どもたちと共に喜び合えたり一体感を感じたりしたときは、保育者としての大きな喜びとなり、やりがいにつながります。

子どもたちの目が輝き、笑顔があふれ、保護者とともに成長の喜びを分かち合える魅力ある保育の世界が、あなたを待っています。

【概要】

- 所在地 / 鳥取県倉吉市福庭854
- 開設日 / 1971(昭和46)年開園。2012(平成24)年に認定こども園に移行
- 運営主体 / 学校法人藤田学院
- 職員数 / 36名(正職員19名・臨時職員等17名)
内訳: 園長・副園長各1名、主幹保育教諭2名、保育教諭14名、パートナー職員7名、事務職員2名、司書1名、栄養士1名、調理員1名、看護師1名、技術職員2名、医師・歯科医師・薬剤師各1名
- 定員 / 145名
- 利用相談窓口 / 倉吉市、当該施設・運営主体



Challenge チャレンジ福祉の仕事

学校法人藤田学院
認定こども園 鳥取短期大学附属こども園

福祉分野の質的变化や制度改革などにより、福祉施設などではさまざまなキャリアや資格をもつ人材が求められ、それに応じて働きがいをもって福祉の仕事に新たにチャレンジしている人たちがいます。ここでは、福祉分野の仕事に就労し、情熱を燃やしている人たちを紹介します。



伊藤佳乃さんは、母親が幼稚園教諭であったことから、子どもと関わる仕事に就きたいと、鳥取短期大学で保育士と幼稚園教諭の資格を取得しました。保育の現場についたときは「子どもたちのエネルギーに圧倒され、そのエネルギーに負けない体力のいる仕事だ」と思いました」と話します。

現在2歳児を担任していますが、3歳未満児は生活面に大人の手助けを必要とする部分が多く、食事や着替えなど生活面の支援にも重きを置いています。

その中で、子どもたちが自分でやってみようと思えるように促したり、やるうとしてる姿を見守っています。自分が自身に手遊びや保育教材のレパートリーが少ないので、増やしていけるようにしたいと思っています。そして、こども園の大きな行事のたびに、職員の団結力の強さを感じる

学校法人藤田学院「認定こども園 鳥取短期大学附属こども園」

保育教諭

伊藤 佳乃さん



「子ども目線」の保育者でありたい

と話す伊藤さんは、「職場では意見も言いやすく、いい雰囲気ですが、子育て家庭の職員が大半となっていてるので、これからはもっと仕事の効率化を考えていく必要があると思っています」と、課題も認識しています。また「同僚の保育者を見てみると、皆さんとても若々しいです。いつもエネルギーが子どもたちに囲まれていると、そのエネルギーをもらって歳をとりにくいのかな？」と、伊藤さんは笑顔を見せます。

「子どもたちから、楽しかった！」という言葉が聞けた時は、とてもうれしいのですが、色々悩みながら子どもたちと関わっていく中で、その子どもたちの成長が感じられた時は、特に大きな喜びとなり、やりがいを感じます」と話す伊藤さんは、どの年齢の子どもでも、その子の思いにきちんと耳を傾けて接することの大切さを分かっています。

これからも「子ども目線」を意識した保育ができる保育者でありたいと願っています。

子どもたちの成長する姿が見られる魅力

学校法人藤田学院「認定こども園 鳥取短期大学附属こども園」

保育教諭

中田 修平さん

「中学生時代の保育園でのボランティア活動で、子どもと関わったことが保育に興味を持った最初のきっかけで、鳥取短期大学に進み学ぶ中で、より保育教諭を目指したいという思いが深くなった」と話す中田修平さん。

鳥取短期大学で幼稚園教諭Ⅱ種と保育士の資格を取得した後、日本福祉大学で幼稚園教諭Ⅰ種を取得して鳥取短期大学附属こども園に入職。当初は「新入で担任を持たせてもらったので、楽しさもありませんでしたが、子どもたちとの関わりや保育の進め方に迷いや戸惑いが大きかったです」と、不安もあったようです。

現在は年長組を担任しており、「子どもたちと共に考えながら、遊びや園生活を進めていくことを大切にしたいと思っています。子どもたちの気づきや発見、こつこつしてみたいという思いを大切にしながら共に歩んでいきたい」と、子ども主体の保育教育を心がけています。

その中で、竹馬に乗れなかった子どもができるようになるなど、目の前で子どもたちの成長する姿を見られたり、心の変化を感じられたりすることは、この仕事でなければ得られない喜びであり魅力だと感じています。また、人としての土台作りとなる重要な時



期の子どもたちに関われることに、やり甲斐と同時に責任を感じながら取り組んでいます。

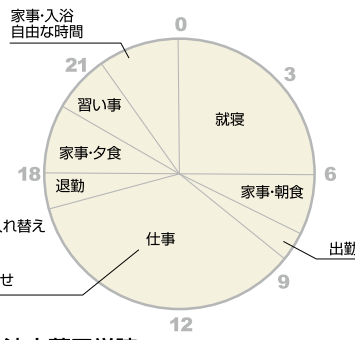
また職場は、「自分の考えていることや思ったことを実践しやすい環境だと感じています。考えを尊重してもらえたり、思ったことを伝えられたりするので、働きやすい職場だと感じています」と話します。

「子どもたちや親御さんから、ありがとう」と言ってもらえた時に、この仕事について良かったと、うれしく思えます。そして、年を重ねても、ここで得たことを活かして生きていけたらいいなと感じています」と笑顔を見せる中田さんです。



福祉職場で働く専門職の紹介「司書(図書館司書)」

絵本をとおして子どもたちの好奇心や創造力を育む



選書の資料作成
「えほんの部屋」の展示入れ替え
年長児クラスの貸出対応
読み聞かせ
えほんサークル打ち合わせ

学校法人藤田学院
「認定こども園 鳥取短期大学附属こども園」

よしのぶ きくみ
司書 吉信 菊美

「司書」は、福祉専門職ではありませんが、福祉職場にはさまざまな職種が求められ、福祉資格でなくても福祉職場で活かすことができます。ここで紹介する司書とは、公共図書館や大学、学校などの図書館において、本や資料の分類整理や管理、蔵書の貸出や返却、レファレンス(情報相談)、広報などを行う国家資格を持つ専門職員のことを言います。こども園に図書館があることと、司書が配置されるのも珍しいケースといえます。



子どもたちと絵本をとおして関わりが持てるのが一番の魅力で、入園から卒園まで、読んできた絵本で子どもたちの成長を感じられること、絵本が親子で過ごす楽しい時間に役立っていると感じられることに喜びを感じます。

仕事のやりがい、
魅力などを教えてください

現在の仕事の内容を
具体的に教えてください

こども園の「えほんの部屋」の管理運営(選書、図書システムへの登録、貸出、レファレンス、コーナー展示、便りの発行、絵本サークルの活動支援など)のほか、園児への読み聞かせを行っています。

新しい提案を受け入れてもらいやすい職場だと感じています。司書として

職場環境と働きやすさについて
どのように感じていますか?

子どもたちの興味関心や、絵本と子どもを結びつける技法(読み聞かせやストーリーテリングへ素話など)を知ることが心がけています。子どもたちは、一人ひとりが色々な思いを持っているので、ちよつとした言動からそれらをつかみ、その子に合った対応をしていきたいと思っています。

仕事をすすめるうえで
大切にしていることは、
どのようなことですか?

子どもたち、先生、保護者から、「えほんの部屋の絵本が面白かった」「役に立った」「親子で楽しんだ」などの感想をもらえた時は、この仕事をしていた良かったと思います。また、見つけてきた動植物について図鑑などで調べ、それが次の活動につながっていくという、子どもたちの好奇心や創造力を育む活動の手助けができたと感じられる時もちろんです。

「この仕事に就いて良かった」と
思うのはどんな時ですか?

休日は何をして
過ごしていますか?

月に1回、倉吉市立図書館でのおはなし会で読み聞かせのボランティア活動を行っています。また、書道や写真の教室へ参加しての作品作りや作品展の鑑賞も好きです。夫と二人暮らしなので休日は萩山などの近場でのドライブを楽しんでいます。

入職した当初に図書システムの導入を提案したところ、その年のうちに提案が通り、図書館のような貸出方法にスムーズに移行することができました。



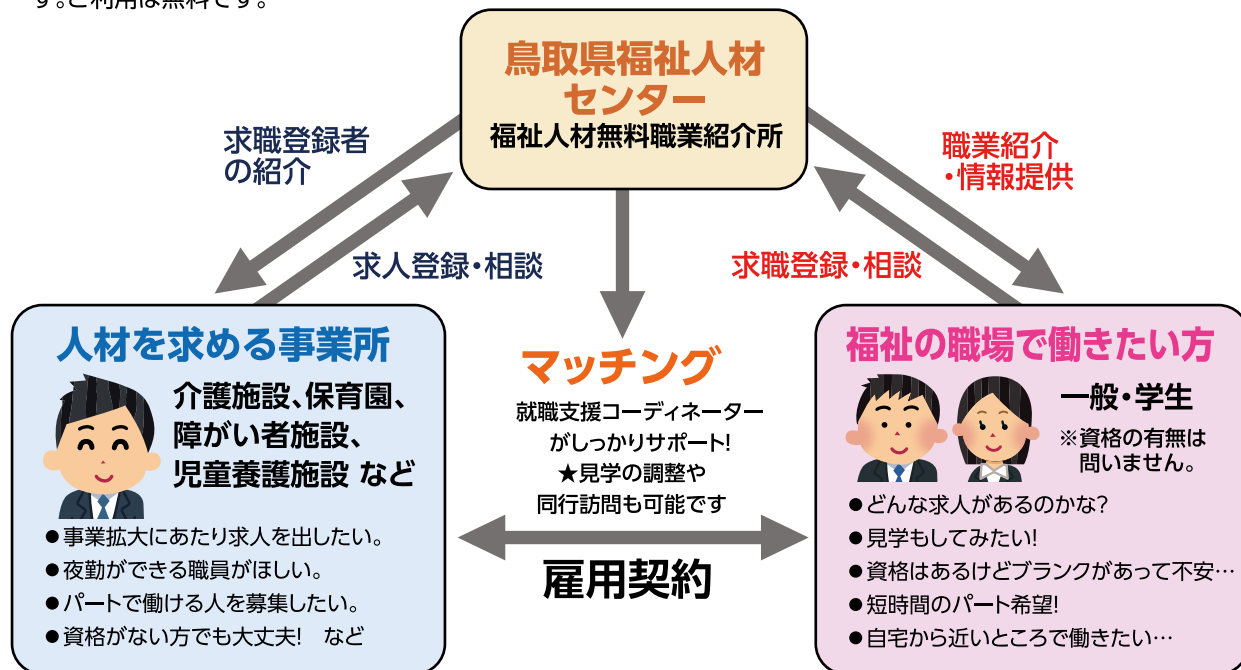
鳥取県福祉人材センターのご案内

福祉の職場で働きたい方と 人材を求める事業所との橋渡しをしています

鳥取県福祉人材センターは、職業安定法に基づく無料職業紹介事業(厚生労働大臣許可)をはじめ、福祉人材の確保・育成・定着に関わる総合的な取組を行っています。【無料職業紹介事業許可番号13-ム-010001】

■無料職業紹介事業

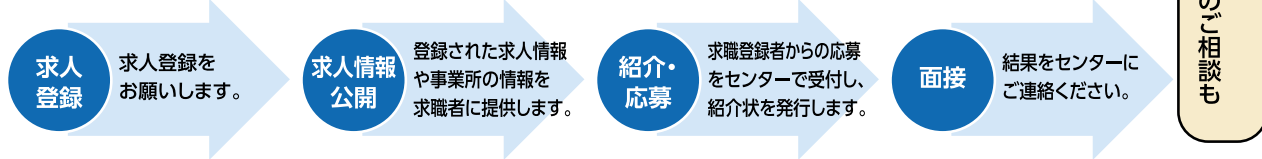
福祉の職場で働きたい方、求人情報を知りたい方には、求職登録や職業紹介、求人情報の提供を行います。また、人材を求める事業所には、求人条件に該当する求職登録者の紹介など、求人者と求職者双方のニーズに応えます。ご利用は無料です。



福祉の職場で働きたい方への職業紹介の流れ



人材を求める事業所への就業あっせんの流れ



まずはご相談ください!

鳥取県福祉人材センター

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5 TEL (0857) 59-6336 FAX (0857) 59-6341

【開設日】月～金 8:30～17:00 (祝日、年末年始は除く)

専用サイトで求職・求人登録・求人票の閲覧ができます。

福祉のお仕事

福祉のお仕事

検索



とっとりボランティアバンク 登録団体紹介

関金小学校読み聞かせグループ わくわく

「とっとりボランティアバンク」はボランティア活動に関心を持っている方が活動に参加する「きっかけ」を提供するため、県内の生活支援や災害ボランティアを中心にした情報を収集・発信しています。

バンクには「ボランティア活動をしたい」個人と「ボランティア活動をしたい／ボランティアを募集したい」団体が登録しています。このコーナーでは登録団体についてその活動や想いを紹介します。

[ホームページ] <https://www.torivc.jp>



関金小学校読み聞かせグループわくわくメンバー(撮影日の読み聞かせ担当者のみ)



読み聞かせの様子

活動曜日はその年ごとに学校側からの要望に沿って決まり、今年度は火・金曜日で、月に3〜4回程度、対象は全学年です。絵本を読むということだけでなく、地域の大人が学校に向くことと子どもたちを中心に地域、学校が連携し合う関係づくりのお手伝いができればという思いで活動しています。メンバーが思い思いに選んだ絵本で読み聞かせをした後、校長室で情報交換

関金小学校読み聞かせグループわくわく(以下「わくわく」)は、倉吉市立関金小学校の朝読書の時間に読み聞かせをしているグループです。現在、30代〜80代の幅広い世代14名で活動しています。きっかけは「おかあさん、学校に絵本を読みに来ませんか?」という担任の先生のひとことでした。その後徐々にメンバーが増え、合併で山守小学校のグループの方も加わりました。町外から通う人もあり、仕事の都合等で増減はありますが、大体12〜15名で活動しています。

絵本を通して学校と地域をつなげたい

アナログカードゲーム リーダー養成講座

活動の一つに今年度から始めた「小学生のためのアナログゲームリーダー養成講座」があります。

アナログゲームとは、カードゲーム、ボードゲームのことです。対面に必ず人が居て、一人では遊べないため「アナログゲーム」と呼んでいます。ゲームリーダーは、単に遊びを楽しむだけでなく、遊び方を他者に伝えてゲームを進める方法や、全体に気を配り、皆が遊びを楽しめる方法をマスターして

をするのが楽しみの一つになっています。発足から26年、先生方にボランティアを温かく受け入れていただき、素晴らしいメンバーに恵まれて活動を続けることができています。また、地域のイベントでヨーロッパ製のアナログゲームの貸し出しと遊び方の指導もしています。代表の西坂さんは、「自分の子どもたちが小学生の頃、近所の子たちが遊びに来ると、台所仕事をする背中越しに会話が聞こえてきます。ある日、電子ゲームを持ってきた子たちが攻撃的な言葉で嬉々として遊んでいましたが、置いていたアナログゲームを始めると、何とも心地良い笑い声に変わりました。その時の体験でアナログゲームの持つ魅力を感じました。カラフルさとデザイン性、偶然系やスピード系などのパリエーションの豊富でもヨーロッパ製のゲームの魅力です」と語ります。

家庭や学校、地域のイベント等で教える側に立つてもらうことを目指しています。取材した日の講座ではアナログゲームの体験をした後、ゲームリーダーになるためのノウハウを学びました。

私たちと一緒に活動してみませんか?

わくわくは、一緒に読み聞かせをしていただけるメンバーを募集しています。朝読書の10分間、子どもたちに関わることで元気がもらえます。年齢・地域に関係なくどなたでも参加できます。少しでも興味を持たれた方、まずは見学に来てみてください。

関金小学校読み聞かせグループ
わくわく

代表／西坂 千代子

「問合せ先」

電話 0856-4513167



アナログカードゲーム体験

鳥取市男性保育士会「じゃんぐる☆じむ」

自分たちの「楽しい」を 子どもたちの「たのしい」につなぐ

鳥取市男性保育士会「じゃんぐる☆じむ」は、男性保育士の交流と保育技術の向上を目的として、2003年に結成されました。鳥取市を中心とした公私立の保育園・幼稚園・児童館などで活躍している保育士や幼稚園教諭のほか、保育士資格を持つ有志26名で活動をしています。

活動は、県内の保育園・幼稚園・こども園から児童福祉施設や公民館のほか、地域のさまざまなイベントに出演し、個性豊かなメンバーがそれぞれの特技を活かし、楽しいステージやミニコンサートなどを行っています。



子どもたち、総立ちで盛り上がります

参加した子どもたちと 保護者が元気になれば

活動の中で結成当初から続けているのが、会の主催で毎年夏に開催している「あつまれーげんきだーサマーキッズコンサート」で、毎回1、000人前後の来場者でにぎわう人気のイベントになっています。

今年8月11日に「アイエム電子鳥取砂丘こどもの国」で開催され、午前中は「けん玉遊び」「コマ遊び」「缶バッチをつくろうー」など、多彩なあそびのコーナーが開かれました。昼休憩をはさんだ午後からは、「おはなし会」そして「じゃんぐる☆じむコンサート」がにぎやかに開催されました。

歌あり劇ありで、「子どもたちのたのしいー」という気持ちが一番のやりがいとして開催してきました。コロナ禍で5年ぶりの大復活です」と、会長の中嶋滋さんは笑顔を見せ



会長の中嶋滋さん

ます。

イベントの開催や出演の中止を余儀なくされた「コロナ禍でも、地元書店での「絵本の読み聞かせ」や著名な絵本作家とのコラボイベントのほか、鳥取駅前パードハットでの「けん玉イベント」、青空の下での「自然体験イベント」などを精力的かつ意欲的に行ってきました。

主催イベント以外にも、県や市町、保育園、児童館、公民館等からのイベント出演依頼を受け、コンサートやおはなし会、けん玉体験等を実施しています。



メンバーの方々

またオリジナル楽曲づくりは、保育現場での子どもたちのつばやきから発想を得た、キャッチーな歌詞と思わずカラダを動かしてしまうメロディで、多くの子どもたちや保護者から好評を得ており、それを収録したCDアルバムを頒価で提供しています。

メンバーそれぞれが、自分の「好き」や「得意」を持ち、コンサートや日々の活動を楽しんでいます

鳥取県ボラセン
キャラクター
「はーちゃん」



検定を受けて級が与えられるシールスタンプカード

岩美町文化センターの
児童館で「けん玉らぼ」



メンバーによる劇「砂丘刑事ジャパン」オリジナルキャラクターです

どこまでいってもまず 自分たちが楽しむことから

男性保育士の社会的認知度を高めるとともに仲間を増やしたいという思いから会を設立し、さまざまなイベントの開催から男性保育士の交流・情報交換、保育技術の向上を目的とした研修などを行ってきました。

結成当初は、鳥取市内の保育現場で働く男性保育士は、全体の数パーセントにとどまり、近年も大きな増加が見られないことから、「社会的認知が広がらず、むしろマイナスイメージがありました」と中嶋さんは話します。

活動を続ける中で「少なからず鳥取市内においては、男性保育士の認知度が上がり仲間も増え、保育現場に男性が必要な存在であることが認識されるようになったと感じます」と中嶋さんは笑みを浮かべます。

また、園で担任した子どもが、大きくなつてからイベントに参加して声をかけてくれて、「保育士を目指している」と聞いた時は、とてもうれしく思えたとも話します。

じゃんぐる☆じむは、まず自分たちが「楽しい」と思えることを楽しみながらすることで、子どもたちにもその楽しさが伝わり、喜んでくれる。自分たちが「楽しい」と感じる活動を行い、それが結果的に地域のつながりづくりや、子どもたちの健やかな成長につながれば良いというスタンスで活動しています。

保育の仕事に密着した 遊びを活かして

岩美町文化センターでは、本庄中央児童館の活動として、子どもを対象としたさまざまなイベントが企画されています。その一つが、じゃんぐる☆じむの協力で開催している「けん玉らぼ」です。



けん玉先生の森田洋祐さん

会のメンバーの日本けん玉協会普及員で、けん玉先生である森田洋祐さんから、けん玉の練習の指導を受けながら「けん玉検定」に挑戦し、けん玉の達人を目指そうというものです。

児童館に常駐する、遊びの専門性を持つ児童館の遊びを指導する「児童館厚生員」である梶川恵一さんは、



児童館厚生員の梶川恵一さん

「けん玉は、小さな子どもも楽しめる遊びで、家族や親子でも一緒に楽しめるところが魅力です。近年はテレビゲームやスマホでのゲームが主流になっていますが、児童館の主旨にかなうことからお願いしています」と笑顔を見せます。

そして、けん玉先生の森田さんは「けん玉は、古くからある遊びですが、世界大会もあるなど、近年静かなブームとなっています。簡単なようで奥深く、ハイレベルな技術が必要とするスポーツでもありますが、気軽な雰囲気の中で、一緒に楽しみながらレベルアップできれば良い、という思いで取り組んでいます」と話します。

「けん玉をはじめ、私たちが提供している『あそび』は、保育の仕事に密着している楽しい遊びです。活動は保育士のスキルアップにもつながり、会の活動をイベントで見てもいい、保育士と保護者との信頼関係が築かれることもあります」と話す中嶋さんは、この活動は「私たちが楽しんでやることで、子どもたちも楽しんでくれるのが、喜びのやりがいになっています」と微笑みます。

鳥取市男性保育士会

「じゃんぐる☆じむ」

会長 中嶋 滋

「問合せ先」

ホームページ

http://jungle-jim.net

E-mail: junglejim1215@yahoo.co.jp

生きがいや健康、仲間づくりの活動紹介

ニュースポーツで生き生きプレ、元気な仲間とともご

8月23日、倉吉市の倉吉体育文化会館で、「令和6年度高齢者ふれあい交流大会」が開かれました。この交流大会は高齢者の交流や居場所づくりを目的に、公益社団法人鳥取県老人クラブ連合会（以下県老連）というが主催。県内の60歳以上の高齢者約130人が参加し、ニュースポーツのラダーゲッターやパン釣り競技を楽しみました。午前中は32チーム（1チーム4人）がリーグ戦で予選を行い、午後は決勝トーナメントで対戦。初戦から決勝まで多くの声援が飛び交う盛り上がった大会になりました。



参加者健康体操

ラダーゲッター優勝チームの鳥取市鹿野町の西浦幹茂さんは「町内で同種目に出場した経験を活かし、県大会でも実力を試してみたいと参加を決めた。勝因は、大会前にみっちり練習したのが良かった。暑い中にもかかわらず多くの参加者と交流でき、とても楽しい大会だった」と優勝の喜びをかみしめていました。そして、敗者復活から優勝へ導く立役者となった松井正子さんは「隣の智頭町チームの方と和気あいあいと話が弾み、応援してくれたことが励みとなつて頑張れた」と笑顔で答えてくれました。また、3位に入賞された三朝町チームの能見八千子さんは「ぶつつけ本番のラダーゲッターで不安と緊張のなかでスタートしました。まさか3位になるなんて。今日は楽しいひと時を過ごすことができました。」とニュースポーツの楽しさを感じていました。参加者の生き生きとプレーする姿には笑顔が溢れ、チームを越えて盛り上がる楽しいふれあい交流大会となっていました。

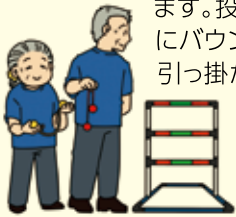
フレイル予防で素敵な高齢者を

交流大会を企画・開催した県老連担当者からは「初めての方でも楽しい、気軽にできるニュースポーツを通して、体を動かしながら楽しく交流してもらえように、広く高齢者の方へ参加を呼びかけました。参加者

同士の交流から仲間づくりへの輪が広がっていきます。今回の交流大会が健康づくり、仲間づくり、社会参加のきっかけになることを期待しています」とメッセージをいただきました。近年、フレイル（加齢により心身が衰えた状態の高齢者が増加した）と言われています。なかでも、外出減少や独居など、社会的なつながりが希薄になる「社会的フレイル」は、さまざまな健康問題に直結する恐れがあります。その予防として、億劫がらずにいるんな場所に出かけることがとても大切であると、この交流会を通じて感じました。さらに、多くの人たちと関わるのが健康寿命の秘訣だと思えます。まず第一歩として、何か自分ができそうな「きっかけ」をみつけ、行動を起こして素敵な高齢期を過ごしていただきたいと思えます。

ラダーゲッター（ニュースポーツ）

ヒモでつながっている2個のボールをラダー（ハシゴ）に向かって投げ、ボールがラダーに引っ掛かると得点となります。投げたボールが床にバウンドしてラダーに引っ掛かった場合は、高得点が獲得でき、思わぬ逆転劇も起こります。



ラダーゲッター優勝チーム(前列) 2位(後列左側) 3位(後列右側)



ニュースポーツ ラダーゲッター試合



福釣り(パン釣り)

趣味の書道に喜びを



ことぶきレポーターの取材より

県内の素敵な高齢者を
同世代のことぶきレポーターが取材をします。
「シニア」の「シニア」によるシリーズ。
地域で頑張っている人、生きがいをもって暮らしている
人など高齢者の魅力を余すことなく紹介します。

地域の高齢者のお世話や仲間との集い、趣味の書道など、様々な活動を続けておられる笠見和美さん(90歳)にお会いしました。笠見さんは東伯郡湯梨浜町長和田にお住まいで、初対面の際はかくしゃくとしており、弾む会話と良い声が印象的で、若々しくともお元気でした。健康の秘訣について尋ねると、笠見さんは「十分な睡眠を取り、自然の中で農作業を楽しんでいること。そして、家族が作ってくれるバランスの取れた食事のおかげ」と感謝されていました。そのお言葉からは、温厚で気配りの行き届いた人柄が感じられます。

さらに、笠見さんは幾つかの会



長職も引き受けており、地域社会との繋がりも大切にされています。高齢者の会ではグラウンドゴルフ大会などを開催し、地域の方々から信頼を寄せられています。その活動ぶりから、若々しさと優しさの秘訣がこの心かげにあるのだと感じました。

様々な活動の中でも、特に、書道に対する情熱は並々ならぬものがあります。かつては独学で筆を取っておられました。が、より本格的に学ぼうと決心され、山陰蘭亭書道会に入会して30年以上にわたり研鑽を積まれています。書道誌『書楽』を通して学び続け、今年も唯一残っていた「条幅」で師範に合格されたことを大変喜んでおられました。雅号を

「和山(わざん)」とし、作品展にも積極的に出品するなど、ますます意欲的に書道に取り組んでおられます。

現在、笠見さんは『書楽』で有段者向けに出題される課題の楷書・行書・草書・かな、そして条幅のすべてに取り組み、毎月提出しておられます。さらに勉強会にも参加し、家庭でもほぼ毎日書道に向き合っておられる熱心さに、思わず「書とは何ですか」と伺いました。すると、「とにかく奥が深い！勉強会で、師匠から2千年前の中国の書家や歴史について話を聞くと、もっと学びたくなる。書道は生きがいだな」とその熱い思いを語られました。また、書道を始めて良かったこととして、「雨で農作業ができない日には、朝早くから机に向かい、筆先に神経を集中して書いている時の墨の匂いが何とも言えず、良い時間だ」と、とても幸せそうに話されました。また、家族の話題になった際は、4世代9人の賑やかで温かい家族に囲まれて暮らされており、夕食時には広いリビングで孫やひ孫たちを眺めながらの晩酌が楽しみと、微笑ましいエピソードもお話してくださいました。

最後に、「自分は今まで地域や職場、そして書道の師匠と、人との良



取材を終えて一言
米田 睦美さん(倉吉市)

笠見さんは、将来、お孫さん、ひ孫さんと一緒に書の勉強が出来たらとの夢をお持ちでした。楽しい姿が間近に実現するのを待っています。「長く続けることが大事。この言葉が身に沁みま

い出会いに恵まれ、感謝している」と感慨深げに語られました。笠見さんのこれまで素晴らしい人生を歩んできた姿と、年齢を感じないほど活力にあふれた情熱的な姿が重なって深く感動しました。これからも、ますますのご活躍を楽しみにしています。



とっとりボランティアバンクにご登録ください

ボランティア

の力を
借りたい
を
してみたい

そんなときは…
とっとり
ボランティア
バンクに

ご登録
ください!



誰かのために
力になりたい

ボランティア
したいけどどこで
募集してるの?

ボランティアと
一緒に地域を
元気にしたい

ボランティアの
力を借りたい

ボランティアバンクでは
こんなお手伝いをします

ボランティアの
活動調整

ボランティアを募集する
方と、活動する方との調
整を行います。

ボランティア活動
に関する情報提供
(メルマガ)

登録された方に、ボラン
ティア募集やボランティ
アに関する講座・研修な
どの情報をメールなど
で提供します。

ボランティア活動
に関する相談受付

ボランティア活動に関す
る困りごと、お悩み、助成
金の申請方法など、何で
もご相談ください。

ボランティアバンクに
登録いただくと…



ボランティア
したい人
(団体)

県内外のボランティ
ア募集やボランティ
ア関連講座・研修な
どの情報を受け取る
ことができます。



ボランティアの
力を借りたい
団体

とっとりボランティア
バンクのHPやメル
マガを通じてボラン
ティア募集やボラン
ティア関連講座・研修
などの情報を発信で
きます。

登録したいと思ったら…

下記ホームページから登録いただくか、登録票に必要事項を記入のうえ、ファクシミリもしくはEメール、郵送にて送付してください。登録票は下記ホームページからダウンロードいただくか、お問い合わせ先にご連絡ください。

ホームページアドレス <https://www.torivc.jp/>



●お問い合わせご相談 福祉振興部(鳥取県ボランティア・市民活動センター)まで TEL:0857-59-6344 FAX:0857-59-6341

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和6年度

ボランティア活動保険

商品パンフレットは
コチラから
(ふくしの保険ホームページ)



新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して2つのプランとします。

保険金額・年間保険料(1名あたり)

団体割引20%適用済 / 過去の損害率による割増適用

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円		
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額		6,500円		
	手術 保険金	入院中の手術		65,000円	
		外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円		
	特定感染症		補償開始日から補償 ^(※)		
賠償責任	地震・噴火・津波による死傷		×	○	
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)		
年間保険料			350円	500円	

*特定感染症についても10日間の免責期間がなくなり、補償開始日から補償対象となります。
なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

<重要>

- ◆基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆途中でボランティアの入れ替え、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。



ボランティア行事用保険

(傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(傷害保険)

福祉サービス総合補償

(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事
保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL:03(3349)5137
受付時間:平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます)
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667
受付時間:平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

鳥取県福祉研究学会第18回研究発表会 研究発表募集中

【学会からのメッセージ】

何度も試行錯誤を重ね、ようやく生み出される成果があります。少し視点を変えるだけで思いがけない発見をすることもあります。

私たちは、皆さんのこうした努力を応援し、専門性やノウハウを共有して、鳥取県域の福祉社会の発展向上を図りたいと思っています。

研究発表は、社会福祉に関わる活動、研究等を行っている方が日頃からの成果を発表する場です。また、それは「自らを試し、自らを磨くこと」に他なりません。

皆さんの意欲的なチャレンジをお待ちしています!!

募集期間: **令和6年 8月1日(木)～令和6年12月13日(金)**

1 発表対象者

鳥取県内に所属・在住する福祉に関する業務に従事している者、福祉に関する調査研究をしている者、その他福祉に関心を持つ団体・個人

2 募集内容

口述発表とポスター発表の2種類あります。※既に職域・職能団体の研究・研修会で発表済みの内容についても対象です。(県内外を問わず) 研究及び発表にあたっては、鳥取県福祉研究学会研究倫理要綱を遵守してください。

- (1) 口述発表(奨励賞の該当区分)
分野別の発表を募集します。

No.	分 野	研究発表例
1	高齢者福祉(施設系)	介護、高齢者虐待防止、認知症ケア、地域密着サービス、生きがい対策等
2	高齢者福祉(在宅系)	
3	障がい児・者福祉	生活介護、生活自立訓練、就労支援、社会参加促進等
4	児童福祉	児童養護、保育、情緒発達支援、母子・父子家庭支援、児童虐待・DV防止等
5	地域福祉	地域福祉計画、住民福祉活動、福祉教育、ボランティア等
6	その他社会福祉領域	共生型ホーム、生活保護、成年後見、権利擁護、企業CSR、食育等

- (2) ポスター発表(奨励賞の非該当区分)
特に分野を分けての募集はしません。

3 開催日: **令和7年 2月22日(土)** 10:20～15:10 (予定)

4 会 場: 鳥取看護大学・鳥取短期大学(倉吉市福庭854 電話0858-27-2800)

●お問合せ・申込み先

福祉人材部(鳥取県福祉研究学会事務局) TEL(0857)59-6336 FAX(0857)59-6341

当日は一般の方の参加も歓迎します。発表をぜひ聞きにおいでください!

HOTeyeギャラリー

鳥取ユニバーサルスポーツセンター ノバリア 紹介②



トレーニングルームには皆さんがお馴染みのランニングマシンやエアロバイクなどの有酸素機器・筋力トレーニング機器をはじめ介護予防トレーニング油圧マシンなどの新鋭機器を設置しています。車いすに座ったまま使用できるケーブルマシンなど、障がいのある方にも利用しやすい機器を設置しているのも特徴の一つです。資格を持ったスポーツ指導員がトレーニングマシンの操作方法の説明や目的に応じたトレーニング方法の相談にも応じています。気軽に安心して利用いただける環境が整っています。

【卓球バレーの起源とルール】

卓球バレーは、1970年代に日本で発祥したスポーツです。元々は、筋ジストロフィー症児のために養護学校で始められ、その後、京都市立鳴滝養護学校が中心となり、ルールや用具を工夫・改善し現在に至っています。名前のとおり、「卓球」と「バレーボール」の要素を併せ持った競技です。ルールも「卓球」と「バレーボール」のルールを合成して作られています。1チーム6人ずつ、合計12人が普通の卓球台を囲んで椅子に座って競技を行います。車いすの方は、車いすのままですたンバイします。ラケットは長さが30cmほどの長方形の木の板を使います。基本的なルールは、相手の打球を3打以内で相手エリアに返すこと、ボールがネットを飛び越えないこと、同じ選手が2回続

卓球バレー



けて打ったり、ラケットや腕などがネットに触れたり、椅子から立ち上がってはいけないうなどです。上肢を動かすことができればどなたでも手軽に楽しむことができます。

社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内)
URL <https://www.tottori-wel.or.jp> e-mail soumu@tottori-wel.or.jp

福祉人材の
確保・育成・定着
を支援します

鳥取県福祉人材センター

TEL.0857-59-6336 FAX.0857-59-6341
URL https://www.tottori-wel.or.jp/jinzai/shigoto_top/
e-mail jinzai@tottori-wel.or.jp

ボランティア活動の
幅を広げる
活動を応援します

鳥取県ボランティア・市民活動センター

TEL.0857-59-6344 FAX.0857-59-6341
URL https://www.tottori-wel.or.jp/hukushi/vol_top/
e-mail vc@tottori-wel.or.jp

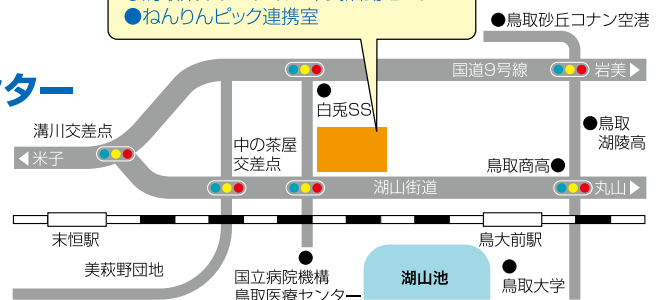
元気な高齢者の
生きがい・社会貢献
を支援します

明るい長寿社会づくり推進事業担当

TEL.0857-59-6332 FAX.0857-59-6340
URL <https://www.tottori-wel.or.jp/chiiki/kotobuki/>
e-mail kototori@tottori-wel.or.jp

県立福祉人材研修センター

- 鳥取県福祉人材センター
- 鳥取県ボランティア・市民活動センター
- ねんりんピック連携室



本誌について、また、福祉に関することについて
県民のみなさまからの御意見をお寄せください。



「HOTeye ホットアイ」第117号／令和6年11月発行

発行／社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会 〒689-0201 鳥取市伏野1729-5(県立福祉人材研修センター内) TEL.0857-59-6331 FAX.0857-59-6340
印刷／日ノ丸印刷株式会社